

神奈川県における盲人卓球

—— 練習を支援するボランティアを中心に ——

渡辺文治（神奈川県総合リハビリテーションセンター 七沢ライトホーム）

視覚障害者 盲人卓球 ボランティア

はじめに

近年、障害者のスポーツ・レクリエーションが社会的に認められるようになり、視覚障害者（以下視障者と略す）の間でもさまざまなスポーツが行なわれるようになった。特に盲人卓球（以下盲卓と略す）は競技人口も多く定期的に練習を行なっているグループも多い。視覚障害者が何らかの活動を行なう際に重要なのが晴眼者のボランティアである。盲卓の場合では視障者の移動や練習の相手、コーチなど晴眼者が必要になる場面は多い。しかし、点訳（点字の本の製作など）や録音、誘導などのボランティアの養成は盛んに行なわれているがレクリエーションやスポーツに関してはまだ不十分な状態である。今回神奈川県内で行なわれている盲卓の状況を明らかにするために各練習グループへの参加者（視障者とボランティア）にたいしてアンケート調査を行なったのでその結果を報告する。

調査の概要

- 1 調査時期 —— 1989年11月～12月
- 2 調査方法 —— グループごとにアンケート用紙（墨字）を配布
- 3 調査対象 —— ①県内で練習をしているグループ ②参加している視障者
③練習を手伝っている晴眼者、ボランティア
- 4 調査項目 —— 調査の項目が多岐にわたるので今回の報告に関する項目のみ
①グループに対するもの（省略）②視障者に対するもの（省略）③ボランティア
に対するもの（性別、年齢、居住地、職業、年数、動機、ルール、練習相手等）

調査結果と考察

表1 回答者数

性	視障者	晴眼者
男	26	7
女	36	36
計	62	43

表2 年代別参加者

性	晴眼者			視障者		
	男	女	計	男	女	計
10代	0	1	1	0	0	0
20代	2	0	2	1	0	1
30代	3	2	5	2	3	5
40代	0	12	12	9	6	15
50代	1	13	14	14	8	22
60代	1	8	9	8	6	14
70代	0	0	0	1	2	3
80代	0	0	0	0	1	1
平均年齢	39.9	50.6	48.8	54.7	53.2	53.8

神奈川県内で定期的に盲卓の練習をしているグループは9つある。今回のアンケートではこのうち7つから回答を得た。表1に回答者数を示した。また、表2に参加者を年代別に示した。視障者・ボランティアともに女性が多く特にボランティアでは80%をこしている。年代を見るとどちらも40～60代の参加者が多い。多数を占める女性の平均年齢は視障者53.2、ボランティア50.6となっている。全体の平均年齢も高く盲卓は比較的高齢者を中心とするスポーツであることがわかる。なお、ボランティアの平均参加年数は男4.6年、女2.6年、計3.0年である。男性は参加者は少ないが参加年数は長い。女性は1年未満（7名）が多く参加年数

表3 晴眼者の居住地

	男	女	計
横須賀	2	8	10
厚木		10	10
鎌倉		7	7
横浜		6	6
相模原	3	2	5
綾瀬		2	2
藤沢	2		2
逗子		1	1

表4 晴眼者の職業の有無

	無	有	その他	不明
男	1	5	1	0
女	29	4	1	2
計	30	9	2	2

表5 晴眼者の参加の動機

	男	女	計
障害者スポーツに関心あり	4	8	12
頼まれたので	2	18	20
その他	1	7	8

表6 どの程度ルールを知っているか

ルールについて	男	女	計
よく知っている	5	2	7
練習程度	2	26	28
ほとんど知らない	0	4	4
その他	0	1	1
不明	0	3	3

表7 練習の相手ができるか

	男	女	計
できる	5	16	21
少してできる	2	18	20
できない	0	1	1
不明	0	1	1

おわりに

今回の調査で盲卓、特にボランティアの実態が明らかになった。視障者のスポーツには卓球大会の開催、審判・コーチのできるボランティアの養成が重要である。神奈川県では毎年身障スポーツ指導者養成の講習を行なっている。しかし、今回の調査では実際に練習などの日常活動を支援するボランティアは地域や他のボランティア活動のなかから育っていることを示している。養成講習をする際に考えなければならない問題である。

(参考文献)

渡辺 他「中途視覚障害者の余暇時間」レクリエーション研究第14号 1985

渡辺 他「神奈川県における盲人卓球」第3回ロービジョン研究会 1990

は少ない。

表3にボランティアの居住地を示した。拠点となる体育館や建物のある市の周辺が多く練習が盛んな場所にはボランティアも多い。

表4に職業の有無を示した。視障者、ボランティアともに男性では有職者が多いが女性には無職者が多い。

表5にボランティアが盲卓に参加した動機を示した。参加の理由は「頼まれて」という回答が多く、「その他」のなかにも「ボランティアをしていて」や「介助していて」という回答が6名あった。これは地域のなかで日常的に接触しているなかから協力者が生れてくることを示していると考えられる。

表6にボランティアがどの程度ルールを知っているかについて示した。男性は70%がよく知っていると答えているが女性では5%にすぎず、全体では16%でしかない。ただし、練習の相手ができる程度には知っているというのが65%、女性では72%で日常の練習にはほとんどの人が不自由していない。しかし、日常の練習の際に審判ができる程度にはルールを学習する必要があるだろう。なお、長期間関わりを持っている人にはルールをよく知っている人が多いが長い人がかならずしもよく知っているわけではない。

表7に練習の相手ができるかどうかについて示した。細かなルールについては良くわからなくても何とか練習の相手はできるという人が多い。